

青春 18 切符プラス近畿圏近郊の古城巡り

選考委員長 村野 健太郎

私は現在 70 歳以上の高齢者であるが、青春 18 切符を時々購入して自分なりに有効な移動を行っている。

青春 18 切符は年間 3 回位(春休み、夏休み、冬休みに該当する期間)、1、2 カ月有効な五枚つづりの切符で 11,800 円、一枚当たりは 2,360 円になる。特急や新幹線には使えないので、在来線の普通列車あるいは快速列車を使用することになる。ある日、使い始めてから何度でも途中下車出来て、その日の終わりまで、24 時まで使用可能であるが、そうすると駅から自宅に帰れないので、実際は遅くとも 21 時、22 時位まで使える。

この列車で時々京都ー東京間を移動する。例えば京都駅を 9 時半ごろの快速電車に乗って、米原、大垣、豊橋、静岡、熱海と乗り換えて、品川に 19 時位に着く。全体の所要時間は約 12 時間であるが、途中の乗り換え時間と豊橋での 1 時間のコーヒー休憩を除くと、10 時間前後列車に乗ることになる。

私は基本的に列車に乗ることが好きなので、東京への移動に毎回使うことは出来ないが、年に 1、2 回はこの切符で移動している。10 時間の車内で何をするかと言えば、まず寝る、本を読む、ウォークマンで音楽を聴く、それから周りにいる人の人間観察、後は流れ行く車窓の景色・・・こういう風にやっていると 10 時間はすごく長いと思われるかもしれないけれども、私にとってはそれほど苦痛ではない。そのため、既に 3、4 回京都ー東京間の移動を行っているのではないかと思う。

その他の使用方法としては、居住地からなるべく遠くまで行く。それはやはりお得感があるからである。往復運賃 6,000 円位かかる所をこの切符 1 枚で行けば 4,000 円弱のお得感。また人によっては、どの位遠くまで行けるかをチャレンジするのを楽しみにしているという風に聞いている。

私の場合は、結構古城巡りに使われている。直近の二例を挙げると、京都駅を 9 時半ころ発って北陸本線福井駅のちょっと先の丸岡駅に着いて、そこからはバスの便がすごく不便なので、タクシーで丸岡城というお城に行った。ここは大都市からも離れており小さな城であり、石垣が結構良く保存されており、城も「現存木造 12 天守」ほぼ江戸時代以前に建てられて木造のまま残っているお城である。

丸岡城は三層で、第一層は多数の木造柱で支えられていて、第二層になるとそれがもう少し太い柱になり、数は少なくなる。そのようにして三層まである。このようなお城の特徴的なこと



丸岡城天守閣と石垣

はまず階段が急なことであり 60 度位、これはほぼ垂直に階段を登るような感じで登るので、登り降りには慎重を期さなければならない。丸岡城は保存状態も良くて、天守閣内を歩くと本当に戦国時代前後の城というのを感じられる。ただ残念ながら周りの堀は埋められてしまっていて全然ないので、ちょっと寂しくはある。一部でも堀が残っていればもっと風情があったろうにと思われる。

もう一例は、このケースは珍しく高松市内に一泊したのであるが、朝 9 時 14 分の普通電車で京都駅から西に向かい、姫路、相生、岡山、坂出と乗り換えて、途中瀬戸大橋線（本州四国連絡橋）を快速電車で渡り、丸亀に 14 時頃着いた。そこから丸亀城に向かって 10 分程度歩いて行った。途中はビルでお城は見えなかったのだが、突如ビルの間隙からお城が見えたときには「おーっ」と感動した。城はそんな大きなお城ではないのでインパクトはそれ程でもないのだが、城直下の石垣がすごく見栄えがして立派であった。ここは掘割もある程度保存されているので、本当に全体的に城らしく見えた。

標高 66m の亀山にお城が造られているが、急な坂を登って三の丸、二の丸、本丸と行き、本丸にそのお城は残っていた。ここは丸岡城とほぼ同じ位の大きさで、内部はやはり木造のいい雰囲気であった。階段はもちろん 60 度位の急勾配である。最上層に登ると瀬戸内海や丸亀の街、それから四国内部の小さな山々、そういう所が 360 度の大パノラマで見るこ



丸亀城天守閣と石垣



丸亀城天守閣の階段と柱



掘り越の丸亀城天守閣

とが出来る。これまで見たお城の中でも1、2を争うような高得点のお城であった。

丸亀から高松へは普通電車で20～30分、高松に着いてその日は泊まり。次の朝、高松城を見に行った。

このお城は海の直近に造られているので、掘割の水は海水である。高松城はほぼ平地に造られた平城であり、天守閣は現存してなくて、石垣だけが残っているが、結構見栄えのする石垣であり楽しめた。掘割を巡る和船巡りをしたが、その和船にくっついてくる魚は真鯛や黒鯛であり、餌を撒くと飛び跳ねるように餌に飛びついて食べていた。周りに100匹位は鯛がいたのではないかと思われる。

高松城は天守閣のあった所が見物出来るようになっていたので、そこから全体を見ることが出来るのであるが、高松市のほぼ中心地にあるため周りは高層ビルであるので、城内だけに眼を留めるのが良い。

今回一泊二日で二枚、日帰り一枚、青春18切符を使ったのであるが、これまでも去年、一昨年と結構古城巡りに使っている。例えば和歌山城、播州赤穂城、竹田城、長浜城、岐阜城、岡崎城。そういう所は距離的にも日帰りでお城を2時間くらい見て帰るのにちょうど適した城であり、訪れている。

京都に移り住んでもう少しで3年が終わろうとしているけれども、関西地区とその近郊のお城はこれまでの旅行も含めて結構たくさん行ったことになる。西から述べると丸亀城、高松城、播州赤穂城、竹田城、姫路城、和歌山城、大阪城、近江八幡城、郡山城、伊賀上野城、彦根城、長浜城、大垣城、岐阜城、郡上八幡城、丸岡城、金沢城、富山城、岡崎城、松本城。これらの中には国宝も含まれており、「現存12木造天守」という江戸時代初期まで頃に造られた木造の天守がそのまま残っているお城もあり、その他に天守は失われたが城跡として石垣が立派であったり、かつてを想像して模倣的に天守が造られたお城もある。

私としてやはり「現存12木造天守」の城が一番好きで、次はむしろ鉄筋コンクリートなどで天守閣を模造したものよりは何もない城跡のままの方がスッキリして好きである。最悪なのは城跡に県庁など行政機関を造る例である。城跡という古風な雰囲気のある場所に県の行政機関のような何の変哲もないコンクリートの事務用建物を立て、しかもそこに県知事や県の行政を司る人がいるというのは、考えようによっては醜悪ですらある。城というのは、かつてその領主が人民を治めるために、睨みを効かすために造ったものであって、そこに県庁を置くというのは県民に睨みを効かすためにあるという風になる。今や県の行政機関は県民への奉仕者として働く機関であるのに、時代錯誤も甚だしいとも言える。……とみるのは、深読みし過ぎだろうか。